

みんなちがってみんないい

自分のことを決めつけられたり、仲間外れにされたりすると悲しい気持ちになりますね。

自分は自分でいいんだと思えたり、人のことをありのまま認めていけたらいいですね。

自分らしさを大切にしていけることを考えてみませんか。

あしなが あきやま ただし／作・絵 講談社	すらりとした美しい犬・あしながは、のら犬たちから嫌われていました。カッコいいけど最低のやつ。みんなのうわさ話を信じたのら犬のケンハ、ある日あしながの本当の姿を知ります。
いいこってどんなこ？ ジーン・モデシット／文 ロビン・スポート／絵 富山房	うさぎのバニーぼうやがたずねます。「ねえ、おかあさん、いいこってどんなこ？」おかあさんは、どの質問にも、一つ一つ丁寧にこたえます。バニーはバニーらしくしているのが一番なのだと。
ウエズレーの国 ポール・フライシュマン／作 ケビン・ホークス／絵 あすなろ書房	仲間はずれにされていた少年ウエズレーが夏休みの自由研究に、自分だけの作物、服を作り、「遊び」「文字」を発明して、「自分だけの文明」をつくりだす物語です。
ええところ くすのき しげのり／作 ふるしょう ようこ／絵 学研教育出版	あいちゃんは背が低くて、走るのも遅くて、100点なんて1回もとったことがない。「わたしって、ええところひとつもないなあ」と、ともちゃんに言うと…。
ええやんそのまま トッド・パール／作 解放出版社	ええやん。盲導犬は、大切なわたしの友だち。ええやん。ちいさいのも、まんなかも、おおきいのも、背がすごく高いのも、ほら、わたし。
おおきいトンとちいさいポン いわむら かずお／作・絵 偕成社	大きい犬のトンと小さい犬のポンは仲良し。ある日、背の高い方がいいか低い方がいいかくらべっこ。ユーモアと機知にとんだ絵本。
かえるくんはかえるくん マックス・ベルジュイス／文と絵 セーラー出版	僕は世界一、幸せものだと思っていたかえるくん。でも、あひるさんが空を飛ぶのを見てがっかり。空も飛べないなんて、僕って本当はだめなかえるなのかなあ。
カーくん 夢ら丘 実果／絵 吉沢 誠／文 ワイズ・アウル	ホシガラスのカーくんは、最近元気がないようです。「みんなのように立派な美しい羽がない」「カッコよく飛べない」とつぶやいています。でも、カーくんにもいいところはあるんです。
かっくん クリスチャン・メルベユ／文 ジョス・ゴフィン／絵 講談社	まんまる家族は、ふとっちょくんもおちびさんも、みんながまんまる。ところがある日、おかあさんのおなかから生まれてきた赤ちゃんはまんまるではありませんでした。

きみはきみだ 斉藤 道雄／文・写真 子どもの未来社	みんなと同じにできることもあれば、ひとりだけできないこともあります。それでいいんです。きみはきみなのだから…。
くれよんのくろくん なかや みわ／さく・え 童心社	新品のクレヨンたち。箱から飛び出して画用紙に絵を描いて大喜び。ところが、くろくんだけは、仲間に入れてもらえません。
ぐるんぱのようちえん 西内 ミナミ／さく 堀内 誠一／え 福音館書店	ぐるんぱは、ひとりぼっちの大きなぞうです。ぐるんぱは、色々な仕事場で一生懸命に働きますが、つくるものが大きすぎて失敗ばかり。
サイモンは、ねこである。 ガリア・バーンスタイン／作 あすなろ書房	ねこのサイモンがライオンたちに言いました。「ぼくたち、にてますね」するとライオンたちは大笑い。違うところをあげていきます。でも似ているところもたくさんあって…。
しげちゃん 室井 滋／作 長谷川 義史／絵 金の星社	「わたし、じぶんの名前、キライ！」男の子みたいな名前のせいで、しょっちゅういやな目にあっている小学1年の女の子しげるは、お母さんに「もっとかわいい名前にかえてよ」と言いますが…。
しょうぼうじどうしゃじぶた 渡辺 茂男／さく 山本 忠敬／え 福音館書店	大きくて立派なみんなは、いつも小さな消防自動車じぶたを「ちびっこ」あつかいました。でも、道がせまい山の中で火事がおこり出動を命じられたのはなんとじぶたでした。
スイミー レオ・レオニ／作 好学社	小さな黒い魚スイミーは、広い海で仲間と暮らしていました。ある日、なかまたちがみんな大きな魚に食べられてしまい、一匹のこったスイミーは旅に出かけます。
すきなことにがてなこと 新井 洋行／作 嶽 まいこ／絵 くもん出版	ぼくは、スポーツが大好き。だけど、みんなの前で話すのは苦手。話すのが大好きなりんちゃんは、動物が苦手…。「すき」も「にがて」も、ありのままがいい。
ストライプ デヴィッド・シャノン／文と絵 セーラー出版	カミラはいつも人の目ばかり気にしている女の子。みんなが嫌いなリマ豆が本当は好物なのも秘密にしています。新学期の朝、格好を気にして服をとっかえひっかえしていたカミラの体が…。
Zero キャサリン・オートシ／作・絵 講談社	自分も数えられる数字になれたらなあ。そう思っていたゼロですが…。セブンのアドバイスで、自分をよく見つめてみると…。
ぞうのエルマー デビッド・マッキー／ぶんとえ BL出版	エルマーは、パッチワークみたいなカラフルなぞう。でもエルマーにとって、自分だけ違うことは悩みのたねでした。ある日、エルマーは「他のぞうと同じ色になりたいな」と考えて、こっそり群れを抜け出します。

そらをとびたかったペンギン 申 ももこ／作 はやし みこ／絵 学苑社	とべないペンギン、モモちゃん。自分だけ違うこと、できないこと。それは弱みでなく、本当は強みだったのです。
たいせつなきみ マックス・ルケード／著 セルジオ・マルティネス／絵 いのちのことは社	いろいろなことができない小人や、絵の具がはげている小人たちに貼られる灰色のためじるしシール。パンチネロもそんなシールが貼られたひとりでした。
たったひとりのあなたへ エイミー・リード／文 マット・フェラン／絵 光村教育図書	フレッドは、テレビカメラにむかって、「あなたがあなたのままでいるだけで、今日が特別な一日になります。わたしは、そのままのあなたが大好きです」アメリカのこども番組で、伝え続けました。
ねずみくんのきもち なかえ よしを／作 上野 紀子／絵 ポプラ社	ねずみくんは公園でねこくにいじわるされてしまったねずみくん。小さくて臆病で失敗ばかりのねずみくんにふくろうさんが教えてくれた、いちばん大切なこととは…。
はずかしがりやのミリアム ロール・モンルブ／作 ひさかたチャイルド	とっても恥ずかしがりやのミリアムは、名前を呼ばれるだけで顔が真っ赤になってしまう女の子です。みんなはそれを「トマトッコ」と呼んでからかいます。
はやくはやくっていわないで 益田 ミリ／作 平澤 一平／絵 ミシマ社	はやくはやくっていわないで。どうしていそぐ。いそいで、どこいく…。きこえていますか？この子の声、あの人の声、わたしの声…。
フンころがさず 大塚 健太／作 高畠 純／絵 KADOKAWA	ボクがフンをころがしていることをみんなは変だという。だから、ボクはフンをころがさないことに決めた。でも友達のキツツキさんが「君はフンをころがすからフンころがしなんだ」って。
ぼくはにんげん スーザン・ヴェルデ／文 ピーター・レイノルズ／絵 新評論	ぼくはにんげん。でも、だからこそまちがってしまう。なにかをこわがったり、傷ついて落ちこんだりもする。そんなとき、ぼくは気づくんだ。それは…。
ぼく・わたし 高畠 那生／作 絵本館	いろんなぼく、いろんなわたし。得意なことはさまざま。みんないろんな気持ちで過ごしてる。イヤなことも、うれしいことも苦手なことも得意なことも みんなぼく、みんなわたし。
まっくろネリノ ヘルガ＝ガルラー／さく 偕成社	まっくろネリノは兄弟の鳥たちにも仲間はずれにされて、いつもひとりぼっち。ネリノは、自分の特徴を生かして大活躍をすることで自信につなげていきます。
みけねこキャラコ どい かや／作・絵 偕成社	みけねこだけど茶色の毛が少しあるだけで、みけねこに見えないキャラコは、色紙や絵の具で茶色をつけるのですが、うまくいきません。

みんなからみえないブライアン トルーディ・ラドウィッグ／作 パトリス・バートン／絵 くもん出版	ブライアンは、絵を描くのが好きで、クラスのなかではめだたない男の子です。みんなの輪にも入れません。そんなある朝、転校生のジャスティンがやって来て…。
めうしのジャスミン ロジャー・デュボアザン／さく・え 童話館出版	めうしのジャスミンは、農場の裏庭で羽飾りのついた帽子を見つけました。帽子をかぶったジャスミンを見て、農場の動物達は大笑いします。
もしかしたら コビ・ヤマダ／さく ガブリエラ・パロウチ／え パイインターナショナル	これまでも、これから、あなたはかけがえのないただひとりのひと。あなたは、あなたにしかできないことをするために、このせかいにいる。
みんなとちがうきみだけど ジャクリーン・ウッドソン／作 ラファエル・ロペス／絵 汐文社	教室に入ると、みんながきみとは違っています。それは肌の色かもしれませんが、服かもしれません。でも、きみのそばには、勇気あるもうひとりのきみが立っていて。
わたしはあかねこ サトシン／作 西村 敏雄／絵 文溪堂	家族中、白、黒、ぶち等、ネコらしい色・模様なのに1匹だけ赤い色をしたあかねこ。あかねこは自分の色が好きなのに、みんなは同情ばかりします。
ワニくんのおおきなあし みやざき ひろかず／さく・え BL出版	人並みはずれた大きな足のワニくんは、自分の大足を悩み、洗ったり、冷やしたり、何かと小さくしようとやってみますが、よくよく考えてみると、足が大きいつてことは悪いことばかりでもない、と気づきます。
わらうきいろオニ 梨屋 アリエ／作 講談社(読み物 小学1〜2)	ひとりぼっちのきいろオニは、学校のこどもたちと仲間になりたいと思いました。こどもたちに見かけのことではやしたてられても、嫌われないようにと無理をするきいろオニでしたが…。